

「人に優しい医療」への貢献

DVx

ディービエックス株式会社
株主通信

2015年3月期第2四半期報告書

2014年4月1日から2014年9月30日まで

証券コード3079

代表取締役社長
若林 誠



株主の皆様へ

To Our Shareholders

東証一部上場により、さらなる社会的信用力の増大と
知名度の向上を実現し、医療への貢献に取り組んでまいります。

Q 東京証券取引所市場第一部に上場した目的と抱負をお話してください。

A 東証一部上場により、さらなる成長を目指してまいります。

当社は、2013年12月12日に東証JASDAQ(スタンダード)から市場第二部への市場変更の後も経営管理体制の維持と

ブラッシュアップに努めてまいりましたが、その結果、2014年9月3日に東京証券取引所市場第一部に上場を果たすことができました。これも株主の皆様からのご支援の賜物と心より感謝申し上げます。東証一部上場の最大の目的は、継続的な経営管理体制の構築と企業体質を強化することで、企業成長力のエンジンとなる優秀な人材を確保するとともに従業員の士

気を高めることです。

東証一部上場により、さらなる会社の知名度の向上と社会的信用力の増大を実現し、企業成長を目指してまいります。

Q 当第2四半期累計期間の業績について総括をお願いします。

A 増収増益を達成することができました。

当第2四半期累計期間の売上高は142億4百万円(前年同期比12.0%増)となりました。営業利益は、増収効果がある一方、新商品の治験費用の発生等により販売費および一般管理費が増加したことで7億1千6百万円(同6.3%増)となりました。また、経常利益は7億2千6百万円(同7.2%増)、四半期純利益は4億6千2百万円(同8.5%増)となりました。

Q 当期における不整脈事業、虚血事業それぞれの戦略についてお聞かせください。また、中長期に向けた事業計画や目標がありましたらお話しください。

A 引き続き販売エリア拡大、独自商品の普及を推進しています。

不整脈事業においては、引き続きエリア拡大に取り組んでおり、既存顧客に対するサービスの充実にも努めるとともに、新規顧客の開拓にも注力いたしました。その結果、電極カテーテル類やCRT-D(両室ペースング機能付き植込み型除細動器)等の主力商品の販売数量が増加し、当第2四半期累計期間の売上高は114億9千2百万円(前年同期比8.6%増)、セグメント利益は16億3千万円(同7.0%増)となりました。

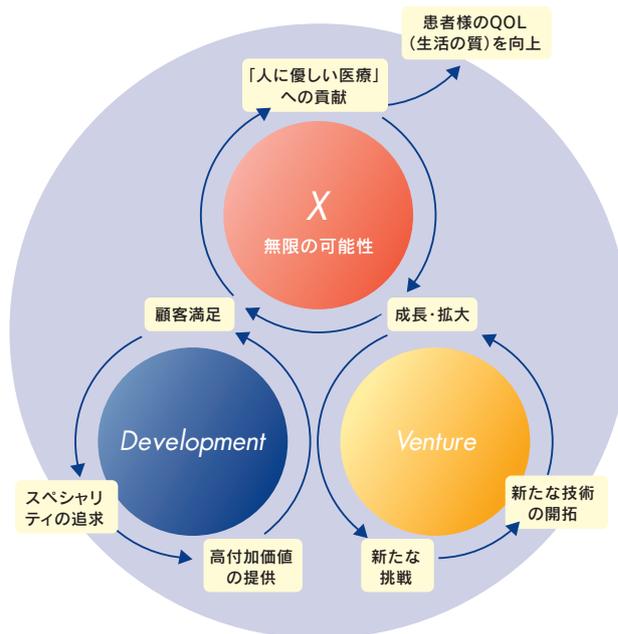
また、虚血事業においては、輸入総代理店として取り扱っているエキシマレーザ血管形成システムの関連商品が、本体の普及に伴って好調に推移するとともに、冠動脈ステント等を取り扱っている販売代理店としても、顧客の深耕および開拓により、好調に推移いたしました。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は21億6千1百万円(前年同期比17.2%増)、セグメント利益は7億1千2百万円(同8.7%増)となりました。

Q 10%に引き上げられる消費税率や為替の動向など、今後想定される事業リスクと対応策についてお聞かせください。

A リスクについては常に注視し、その対応策の進捗を定期的に評価しております。

消費増税が医療施設経営に与えるインパクトについては中期的な問題点と捉えておりますが、当社においてはその影響を仕入交渉等の購買戦略やメーカーとの協体制強化によって吸収するべく努めてまいります。

また、為替については、円安の進行は利益率の低下につながります。引き続き為替動向を常に注視し、為替予約によるカバーや通貨オプションの活用等、機動的な為替リスクヘッジを講じてまいります。



なお、第29期(2015年3月期)の想定為替レートは、103円に設定しています。

Q 2016年の上市を目指して治験が始まった下肢末梢動脈治療用レーザカテーテルの概要と今後の業績に与える影響についてお聞かせください。

A 商品の持つメリットを高め、普及を加速するものと考えています。

エキシマレーザ血管形成システムには、①心内リード抜去、②冠動脈形成術、③下肢末梢動脈治療の3つの用途があります。現在日本国内で薬事承認を得ているのはこのうちの①②ですが、③の用途についても承認を得、保険適用されれば、同システムの持つ価値が高まることになり、医療施設や患者様にとって選択肢が広がることとなります。エキシマレーザ血管形成システムはまだ普及段階にある商品であるため、製品のメリットの広がりによってさらに普及が加速し、その効果は3つの用途全体に影響を与えるものと考えています。

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A 今後も医療現場に貢献し、企業価値の向上に努めてまいります。

2014年9月3日に東京証券取引所市場第一部銘柄に指定されました。株主の皆様へ感謝の意を表すと同時に、東証一部指定を記念しまして、期末配当において1株当たり1円の記念配当を実施することとしました(期末配当は普通配当15円とあわせて16円の予想)。今後も命とQOLを守ることに貢献できるよう、医療現場のニーズを追求し、ソリューションを提供し続けていきます。株主の皆様におかれましては末永いご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

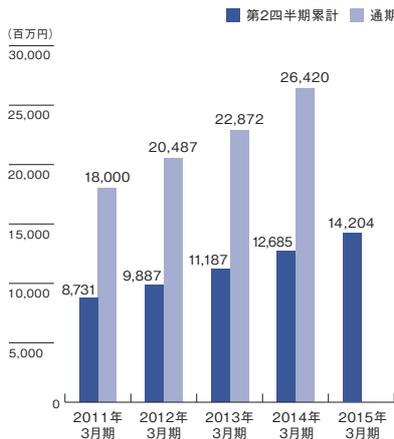
財務ハイライト (2014年4月1日～9月30日)

当第2四半期決算のポイント

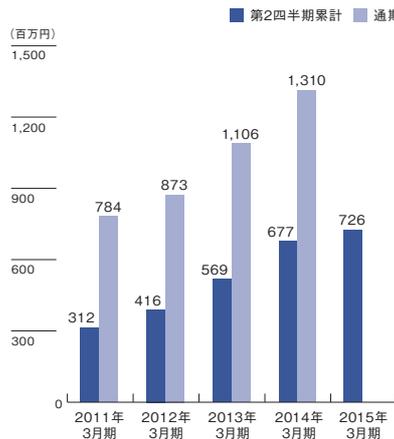
売上高・各段階利益ともに過去最高を更新。

消費増税と償還価格の引き下げ、円安の進行等があったものの、各セグメントにおける売上高増加の効果等により増収増益を達成しました。

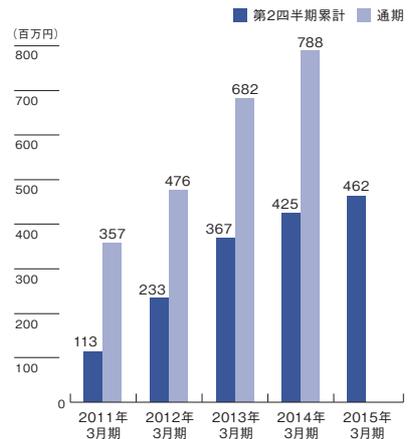
売上高



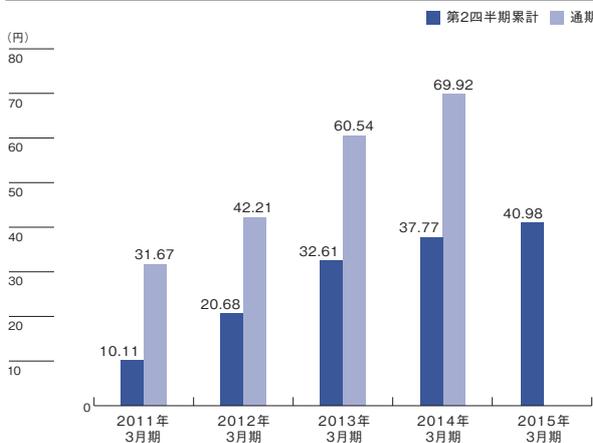
経常利益



四半期(当期)純利益



1株当たり四半期(当期)純利益



純資産 / 自己資本比率



* 当社は2011年10月1日付、2012年10月1日付および2014年4月1日付で、それぞれ普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行いました。2011年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

ポイントの解説

1 売上高142億円を達成

不整脈事業における主力商品の販売数量の増加や、虚血事業におけるエキシマレーザ血管形成システムの関連商品の好調な推移のほか、その他事業において大型機器の販売があったこと等により、売上高は前年同期比12.0%増の142億円を達成しました。

2 自己資本比率の安定推移

2011年3月期第2四半期末の自己資本比率は28.3%でしたが、当第2四半期末においては36.7%となりました。有利子負債の低位安定と増益基調の維持により、今後の成長を支える財務基盤が強化されてきています。

Front Line —医療の最前線から—

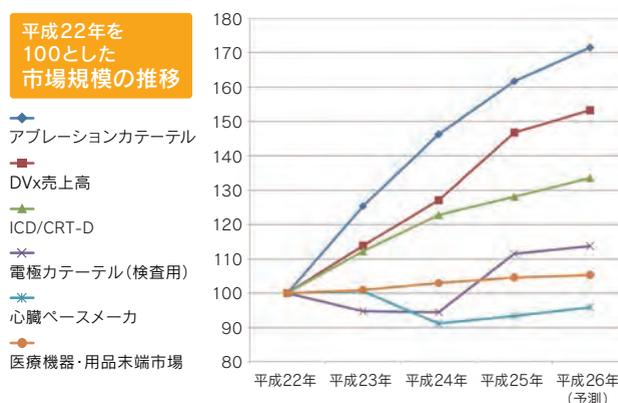
不整脈事業の市場

不整脈とは、心臓を動かす刺激の発生または刺激が伝わる伝導路の異常によって心臓のリズムが乱れる疾病のことで、脈が遅くなる「徐脈」、速くなる「頻脈」、リズムが不規則になって脈が飛ぶ「期外収縮」の3つに大別されます。原因としては、先天的なもの以外に加齢や喫煙、ストレス等によって引き起こされるといわれています。不整脈事業の市場は、こうした高齢化や生活スタイルの変化に伴う患者数の増大、新商品開発による適応患者の増加により安定した拡大を続けています。

商品別では、ICD(植込み型除細動器)、CRT-D(両室ペースティング機能付き植込み型除細動器)、アブレーションカテーテル(心筋焼灼術カテーテル)の市場規模が大きく伸びており、横ばい状況が続いている医療機器・用品市場全体の中において、不整脈事業の市場は堅調に増加しております。今後も不整脈患者の中心である65歳以上の人口は2040年代半ばまで

増加し続けると予想※されていることから、市場の拡大基調は続くものと見られています。

※国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」



資料: (株)アールアンドティ「医療機器・用品年鑑 2014年版 No.1」を基に当社作成

市場規模(金額)

単位: 百万円

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年(予測)
アブレーションカテーテル	7,703	9,654	11,267	12,455	13,210
DVx売上高	18,000	20,487	22,872	26,420	27,583
ICD/CRT-D	23,479	26,346	28,825	30,079	31,346
電極カテーテル(検査用)	15,960	15,127	15,085	17,792	18,155
心臓ペースメーカ	40,645	40,881	37,080	37,960	38,990
医療機器・用品末端市場	2,724,000	2,751,000	2,806,000	2,850,000	2,870,000

■ 心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカは、不整脈のうちでも、主に、脈が遅くなる「徐脈」の治療に使用されますが、同市場は、償還価格の引き下げによる影響を受けつつも、数量ベースでは増加基調が続いており、市場規模は400億円前後で推移しています。

今後の見通しとしては、償還価格の低下傾向は続くと思われるものの、引き続き高齢化等による患者数の増加により、数量の伸びが予想されるとともに、MRI対応などの新しい機能が付加された商品が市場に登場し既存商品より高い償還価格が付くことで、市場規模は一定水準を維持していくものと考えられます。

■ ICD(植込み型除細動器)

心臓ペースメーカが「徐脈」の治療に使用されるのに対して、ICDは「頻脈」の治療に用いられています。同商品は、1996年4月の診療報酬改定で保険適用となっており、心臓ペースメーカと比較すると新しい商品ですが、適応患者の増加や新商品の登場とともに市場規模が拡大しています。

■ CRT-D(両室ペースティング機能付き植込み型除細動器)

CRT-Dは、ICDの機能と、心不全の治療の一種である心臓再同期療法の機能を併せ持つ商品であり、2006年8月に保険適用を受けたものです。それ以降、ICDに比べると適応範囲が広いこともあり、

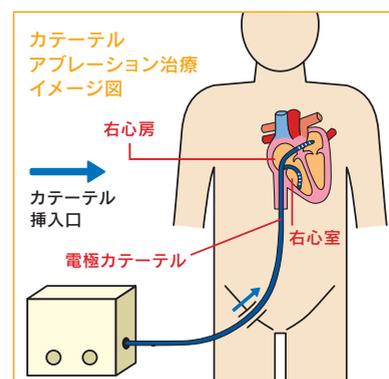
市場規模はICD以上の伸びを示しています。今後も、新商品の投入や適応患者の増加により、増加傾向が続くものと考えられます。

■ 電極カテーテル(検査用)

電極カテーテルは、不整脈の診断、重症度評価、抗不整脈薬の薬効評価のほかに、心臓ペースメーカやICDの適応決定等、重要な役割を持った商品です。不整脈の症例数増加に伴って、継続的に数量が増加しており、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

■ アブレーションカテーテル(心筋焼灼術カテーテル)

アブレーションカテーテルは、「頻脈」の原因となる心筋組織を焼灼することで治療する商品です。WPW症候群と呼ばれる症状のほか、房室結節リエントリー性頻拍、心房粗動、心室頻拍に加え、心房細動の治療にも用いられるようになる等、対象となる症例の幅が広がってきたことから、市場規模は年々増加しており、今後もその傾向が続くものと考えられます。



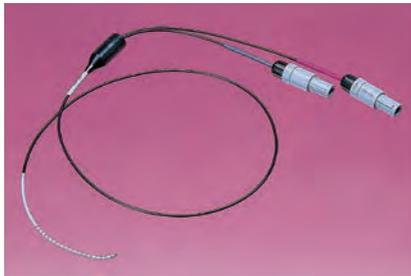
事業セグメントの状況

不整脈事業 *Arrhythmia Business*

当第2四半期累計期間実績

売上高: 114億9千2百万円

電極カテーテル類やCRT-D(両室ペースング機能付き植込み型除細動器)等の主力商品の販売数量が増加し、当第2四半期累計期間の売上高は114億9千2百万円(前年同期比8.6%増)、セグメント利益は16億3千万円(同7.0%増)となりました。



電極カテーテル

不整脈の診断や薬効評価に欠かせない心臓電気生理検査用カテーテルおよび、アブレーション(焼灼)治療用カテーテル等があります。

売上高
142億
4百万円

事業セグメント別売上高構成比

- 不整脈事業 80.9%
- 虚血事業 15.2%
- その他 3.9%

*「その他」においては、脳外科商品、放射線防護用品、書籍等を販売しております。

虚血事業

Ischemia Business

当第2四半期累計期間実績

売上高: 21億6千1百万円

輸入総代理店として取り扱っているエキシマレーザ血管形成システムの関連商品が、本体の普及に伴って好調に推移しました。また、冠動脈ステント等を取り扱っている販売代理店としても、既存顧客の深耕および新規顧客の開拓に注力し、好調に推移しました。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は21億6千1百万円(前年同期比17.2%増)、セグメント利益は7億1千2百万円(同8.7%増)となりました。



エキシマレーザ血管形成システム

現在日本国内において「エキシマレーザによる心内リド抜去術」「エキシマレーザによる冠動脈形成術」の2つの治療に適用が認められています。

営業の概況

Operating Results

販売代理店業のエリア拡大に取り組み、顧客の深耕・開拓を行っています。

不整脈事業においては引き続き全国展開を推進し、新規顧客の開拓に努めています。虚血事業においては、輸入総代理店として自社商品の普及を推進するとともに販売代理店としても顧客を開拓し、ともに好調に推移することで増収増益を達成しました。

2015年3月期(通期)の業績予想

Outlook

商品ラインナップの拡充にも取り組み、さらなる成長につなげます。

通期の業績については、販売面においては引き続き当初想定した範囲で推移するものと予想しています。また、販売費および一般管理費は、新商品の治験が計画に対して若干遅延していることから、当該費用の一部の発生が第3四半期以降にずれ込むこととなりましたが、通期では当初の計画通りに発生するものと見込んでおります。

2015年3月期の業績予想

(百万円)	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2015年3月期	27,583	1,334	1,333	838
2014年3月期(実績)	26,420	1,297	1,310	788
増減率(%)	4.4	2.9	1.7	6.4

当社に関する詳しい情報は、ホームページをご覧ください。

<http://www.dvx.jp/ir/index.html>

最新のIR情報を掲載しています。

検索

インフォメーション

会社の概要 (2014年9月30日現在)

商号	ディービエックス株式会社 (DVx Inc.)		
設立	1986年4月1日(昭和61年4月1日)		
資本金	3億4千4百万円		
本社所在地	東京都豊島区高田2-17-22 目白中野ビル5階		
代表者	代表取締役社長 若林 誠		
従業員数	231名		
事業内容	医療用機器ならびに関連周辺機器の輸出入および製造販売業、修理業、リース業 医療用機器ならびに関連周辺機器の研究・開発 医療および医療用機器全般のコンサルティング業務ならびにサービスの内外提供 医療出版および市場調査を含む関連サービスの内外提供		
営業所	北海道営業所	東北営業所	
	茨城営業所	群馬営業所	
	埼玉営業所	東京営業所	
	八王子営業所	横浜営業所	
	静岡営業所	沼津営業所	
	浜松営業所	名古屋営業所	
	大阪営業所	広島営業所	
	九州営業所		
出張所	盛岡出張所	栃木出張所	
	福井出張所	福山出張所	

役員 (2014年9月30日現在)

代表取締役社長	若林 誠	取締役(社外)	村松 光春
代表取締役副社長	千葉 茂	常勤監査役	戸田 幸子
取締役	柴崎 浩	常勤監査役	塚原 信一郎
取締役	魚住 洋二	監査役(社外)	三縄 昭男
取締役	鍋谷 正行	監査役(社外)	中村 眞一

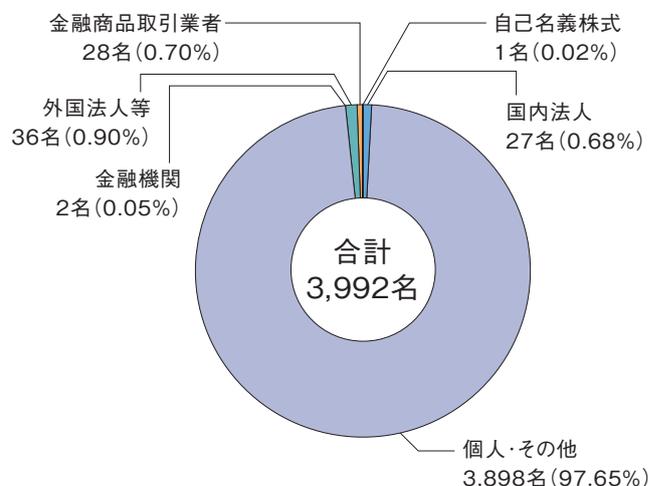
大株主 (上位10名) (2014年9月30日現在)

株主名	持株数	持株比率
株式会社MSS	3,192,800株	28.30%
若林 誠	1,692,000株	15.00%
ビービーエイチ フォー フィデリティロー プライズ ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	815,100株	7.22%
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505224	285,200株	2.52%
ディービエックス社員持株会	255,800株	2.26%
ケービーエル ヨーロピアンプライベートバンカーズ オーディナリー アカウント 107501	164,200株	1.45%
株式会社SBI証券	160,200株	1.42%
岡 文男	136,400株	1.20%
戸田 幸子	134,400株	1.19%
宮川 貴子	96,000株	0.85%

株式の状況 (2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	44,000,000株
発行済株式の総数	11,280,000株
株主数	3,992名

所有者別株式分布状況 (2014年9月30日現在)



株主メモ (2014年9月30日現在)

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 (市場第一部)
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.dvx.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

- (ご注意)
- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。